

## 注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

### 【タイトル】

東方黒祖龍

### 【作者名】

ゴッドキラー

### 【あらすじ】

僕は、気がついたら真っ白な世界にいた。そして、目の前には神がいて別世界に転生させてくれるという話だった。

初投稿です。暖かい目で見てください！

## プロローグ

僕は、気がついたら何も無い真っ白な世界にいた。

「あれ？どどこ？ここ？確か、さっきまで僕、外で友達とミラールツ狩に行ってたよね？」

何があつたか思い出そうとしていると後ろから声をかけられた。

「よつやく目を覚ましたかい」

後ろを見てみるとそこには巨大な羽を生やした金髪の男が立っていた。僕はそれを見て

「あぁー、これが俗に言う、中・二・病ってやつなんだね」

と、言い放った。すると

「残念だけど、僕は中二病じゃないよ。僕はね、神さ」その言つの中二病って言うんだよ」話を最後まで聞けや」ラ、はっ倒すぞ」

うつわ、怖、この人、ここまでドスの効いた声がだせるんだな。と僕は思っていた。

「コホン、話がずれたね。僕が君に会いに来たのは友達がミスっちゃてねえ。君はそのミスで死んじゃったんだよ。で、友達が会いづらいうつてことで僕が君を別世界に転生させてあげることにしたんだ。もちろん、転生させる際には特典もつけるよ」

マジか、これが噂の神様転生ってやつか。あれ？でも僕死んだとき

のこと覚えてないぞ？

「なあ、神様」

「なんだい？」

「僕ってどうやって死んだの？僕、その時の事、全く覚えてないんだけど？」

「君は帰る途中、バナナの皮を踏み、滑ってこけている時に居眠り運転のトラックに撥ねられたのさ」

ま、まさか、僕がそんなドンマイな終わり方をするなんて……

「さて、話すことも話し終わったし、そろそろ君を転生させないとね。君はどんな別世界にいきたいの？」

「東方のせかいで」

「わかったよ。次に特典なんだけれども、特典は最高で5つまでだよ」

「それじゃあ、1つ目の特典は『ミラ系三種になる程度の能力』で、二つ目は不老不死の妖怪にすること、三つ目は転生する時間は古代からで、四つ目は全ての攻撃が相手の実態をとらえる攻撃になること、五つ目は最も重要で、僕がぶちぎれた時か本気を出すときにしかミラルーツになれないということだ」

「分かったけど、なんで、本気がぶちぎれた時だけなんだい？」

「それじゃないと、ルーツばかりに頼りそうじゃなか」

「なるほどね、っと、設定は完了したよ。あとは、この階段を下りていった先にある扉を潜り抜けたときから君の新しい人生の始まりだよ」

ようやくカー、でも、これで僕の新しい人生が始まるんだ。精一杯  
楽しまなくちゃな！

「そういえば、君の名前を聞き忘れていたよ。君の名前は？」

「とても物騒な名前だよ」

「どんな名だい？」

「殺 狂夜。それが僕の名前だよ」

「そうか、それじゃあ狂夜君、新しい人生を楽しみたまえよ！」

言われなくても元からそのつもりさ。そして、僕は扉を潜り抜け、  
新しい世界に飛び立っていった。